

20130831 現代政治戦略研究会議事録

「ネット選挙をいかに活用していくか？」

日 時：2013年8月31日（土）15:00-17:50

場 所：東京・竹橋 ちよだプラットフォームスクウェア

発表者：青木佑一さん（株式会社パイプロビッツ／

政治・選挙プラットフォーム「政治山（せいじやま）」担当）

情報提供者：土井裕之さん（さいたま市議会議員）

井上航さん（埼玉県議会議員）

参加者：参加者 12人（発表者除く）

（財務コンサルタント、公共経営コンサルタント、会社経営者、新聞記者、地方議員、
大学生、NPO法人理事長、行政書士・司法書士など）

発表／青木佑一さん

目次；

1. ネットの情報は有効
2. 参院選で見えた課題
3. 成功例と失敗例

ネット選挙解禁いかがでした・・・？

地方議員からのコメント・・・。

松阪市議会議員「言論解放の日」

大府市議会議員「陳列棚が少し手前に少し明るくなった」

今日伝えたいこと・・・。

1. ネットの情報は有効
2. 参院選で見えた課題
3. 成功例と失敗例

そして、結論は、継続的に発信、拡散、ネットワークが必要

1. ネットの情報は有効

「有効じゃなかった」というマスコミの報道が多い。たとえば、共同通信「出口調査」によるとネットを参考にしたと回答したのは約1割に過ぎない。しかし、「政治山調査」ではネット活用が約3割（ニュースメディア、選挙情報メディア、候補者や政党のHPやBLOGなど）とな

っている

多いと見るか少ないと見るか？

共同通信「世論調査」（上記とは別のもの）によると「大いに役立った」、「ある程度役立った」との回答は約4割となっている

今回の参院選で投票率が下がったのはネット選挙のせいかな？（違うと考えている）

若年層への影響は20代、23.9%で最多。年代が上がるにつれて下がっていく傾向がある。

若年層の女性で「大いに役立った」、「ある程度役立った」との回答は53%となっている

富山県の場合、前回の参院選と比べて若年層は投票率の低下が少ない。また、松山市の場合、20代だけが投票率が上昇

ネット選挙解禁で若年層の下落が抑えられたのではないかな？ 若年層への投票行動に影響があったのではないかな？と考えている

2. 参院選で見えた課題

政治山調査の参院選前後の比較によると、参院選前は3割ぐらいが参考にしたいとしていたが、参院選後は1割ぐらいしか実際に参考にしていなかった。

また、もともとネット選挙に期待していなかったが約5割となっている

期待のポイントとしては候補者のプロフィールや政策などを比較したいとの回答が53.8%となっている

Twitterにおける候補者のつぶやき分析によると、演説3420、選挙2810、駅2610、市2310、街頭2240という順になっている。これに対して原発920、雇用160、景気150となっている（毎日新聞・立命館大学 共同研究）

演説の日程などが多くつぶやかれ、政策などは情報発信されなかった

政治家が発信する情報と有権者が欲しい情報にギャップが生じていると読むことができる。供給された情報が需要を満たすものではなかったといえる

ネット選挙へ期待していた人が多いのは、自民党、民主党、維新の会の支持者であり、期待していない人が多いのは、公明党、共産党の支持者となっている。組織的に選挙を行う政党支持者はネット選挙へ期待をしない人が多い

ネット選挙を利用した人が多いのは、自民党、維新の会支持者で、ネット選挙を利用していない人が多いのは民主党、みんなの党となっている

したがって、期待×利用＝政治3グループに分化することができる

期待かつ利用した、自民党、維新の会支持者と、あまり活用しなかったがそこそ活用した共産党、公明党支持者（組織政党）、そして期待していたが利用しなかった民主党、みんなの党支持者

また、期待×利用が多い有権者のグループは男性20代、男性30代、男性40代、女性20代となっている

毎日新聞によると、共産党、自民党が順調に拡散を行うことができた。自民・維新・共産は「ネ

ット選挙」活用成功したといえる

3. 成功例と失敗例

ネット選挙にて1つの取組みが大勢に影響を与えることはなかった。だからこそ、普段使いの成果と課題が見えてくる

成功例としては山本太郎、吉良よし子が挙げられる。また、失敗例としては鈴木寛、伊藤洋介が挙げられる

鈴木寛はほぼすべてのメディアを活用していた。しかし、鈴木寛のネット活用は効果があったのか？

山本太郎はサイト訪問者数が急増していた。特に選挙前日の伸びは他候補者を圧倒した。選挙期間中の日々のTwitterの活用の成果といえる

伊藤洋介は若年層がメインであるのに対し、山本太郎は50代以上層の接触量を確保していた。HPに力を入れることが大切といえる

産経新聞によると、選挙期間中、候補者による発信量が1割に激減したと報じていた。ネットを日頃の活動に利用していくことが大切といえる

ネットの利用には3種類ある。情報の発信、共有、受信である。普段からネットリサーチやSNS分析が必要となる。たとえば、Twitter ツイートの位置情報「ヒートマップ」を利用することも検討する必要がある。支援者獲得のコミュニケーションツールともなる

オバマ選挙のネット活用は選挙運動、ネット寄付、コミュニティの醸成の効率化のために行われた。オバマ選挙のサイトは電話勧誘とか戸別訪問とかの履歴が残り、共有できるようになっている

※まとめ

- ①投票行動へのネットの影響はあった
- ②情報発信の内容に受け手・送り手のギャップがあった
- ③重要なのは、継続的な発信・拡散・コミュニケーション

ネット活用は加速していく。まずは普段の活動を伝えていくことが大切

情報提供／土井裕之さん

Twitter、Facebook、Blogを使っている。Twitterはこまめな更新が必要。Facebookへ連動させていてコメントへは対応している

ネット選挙の前提として政治家／候補者の3つの期間がある。選挙期間、投票日、そして、そ

れ以外（政治活動の時期）。選挙期間はさいたま市の場合、9日間である。とても短い。この期間でできることにはあまり期待していない

ネット選挙は今はまだ大量の得票を得るに至っていないのが現実。ただし、10年～20年経つとわからない

そもそも政治活動の期間に選挙のために必要なことはできる。たとえば、ポスターからサイトへの関連性をはかっている。つながりを作ることが大切

ネット選挙についても使い方のアイデアがあると新たな展開ができる

映像はいかに使うかを検討している。文字ばかりの情報発信は理屈っぽいという意見もいただいている。映像は当たり前になっている。活用していきたい

今年5/19、さいたま市長選（ネット選挙解禁前）にて、知らない方からもツイートをいただくことがあった

参院選で応援した全国比例の候補者を応援した。ネットを活用するしかないという方針だったが、2日に一度メールを送っていたら苦情を多数いただいた。情報が多過ぎるといふ苦情もあった

ネット活用について3点

- ・ネットはツールになる。多くの人が日常生活で使っている
- ・支持者はとっぜん増えない。直接お話しするなど人間関係、信頼関係が大切である
- ・ネットはリアルでの関係を補足するものと捉える

ネット活用についてのメリット

- ・ビッグデータを利用できることが挙げられる。が、さいたま市議会は議員自体がIT化されていない。iPad活用の機運もあったが、盛り上がらなかった。議員が日常で使っていない。また、議員の世代間の差が大きい
- ・情報の収集のしやすさも挙げられる。議員のお話しを知ることができる。議員に対して直接に発信できる。有権者のメリットとなる

ネット活用についてのデメリット

- ・ある議員が視察の内容をネットに上げていた。その際に自費で食事をした「Tポーンステーキ」を上げたところ、炎上。議会において政治闘争化してしまった

最後に

先日、ノルウェーを訪問。丁度、総選挙中だった。大通り沿いに各党がブースを出して、パンフを配布していた。若年層の投票率が低いのは日本と同じ傾向である

日本は個人、政党、各サイトが入り乱れていて、複雑でわかりにくい。いかにシンプルにしていくか

選挙のあり方。新陳代謝のために工夫の余地がある。ネット投票も一つだが、選挙活動はもっと自由にすべき。ただし、お金をかけないようにすることが大切。公選法はグレー、手さぐり

しつつ選挙を行っている

選挙は個人の顔写真よりも政策、中身が大切である。結局ネットだけで取り繕っても、有権者は本質を見抜く力をもっている。ネットによる発信についても中身こそ、重要な要素となる

情報提供／井上航さん

ネット選挙解禁前は選挙の応援に行っても、名前を出せず、顔写真を出せなかった。不自然だった。ネット選挙の解禁は選挙に関わる身として楽になった

県議会は定例会が年4回あり、議員が90人いる。このため、一般質問は年1回となっている先日の一般質問にてネット選挙を取り上げる。県選管はトラブルが起きないことが第一と答弁した

ネット選挙解禁後、立候補届出書に URL 欄が入るようになった。候補者のサイトはリンクは貼れないということになっている。リンク先でのトラブルを避けるため

未成年について教育委員会と連携し広報を行った

県選管は上記のようなトラブル対応を行った

参院選においてネット選挙違反の通報は埼玉県ではなかった。メールの事前承諾など複雑な運用があるので候補者が尻込みしたか？

県選管は Yahoo! と提携してエリア・マーケティングを活用した。居住者から割り出して参院選の広告が出るようにした

では、投票率は上がったか？ 埼玉県はもともと投票率が低いところ、参院選は地方選よりましだった

国政選挙においてはマス・メディアの風に影響される。僅差の選挙にはネット選挙が有効ではないか？

ネット活用

サイト、Blog、Twitter、Facebook を活用している。長い文章が書けるので Blog を中心に活用している。サイトはアーカイブとして活用している。日常使いとして Blog、Facebook、サポートして Twitter としている

県政はわかりにくい、遠いと言われることが多い。わかりやすくしたいという強い思いがある市議と県議の差。和光市の市議は20人に対して、和光市選出の県議は1人。より発信に重みがあると感じている。その発信はなるべくわかりやすくしたい。そのためには、チラシだけでは不足、ネットが補足してくれている。また、県議会の情報発信の不足を補足したいと考えている

ネット活用で気を付けていること

- ・視察報告はリアル・タイムでは書き込まない。リアルのセキュリティが甘くなる
- ・周辺のプライバシー情報にも気を付けている。たとえば、インターンについても顔写真やフルネームを
ネットに上げたりしない
- ・自分の名前の検索結果を定期的にパトロールしている

ネット活用のメリット

- ・首長、市議会議員、県議会議員との良い意味での刺激を与えることができる
- ・駅前にてチラシ配布を行っており、数百人単位で顔を覚えている。駅友と呼んでいる。この駅友と Facebook、Twitter のリクエストにてつながることができる。政策論議も行っている。ネットがリアルを補完してくれている。可能性を秘めていると感じている
- ・地域の行事に出ることができないときの言い訳にも使えるかも??

苦勞

- ・現実的に効果があるものにするには? もっとネット活用の方法があったら良いのに・・・
- ・GPS 活用にて議員からの友だち申請は警戒されるのでは? ネット上の人見知り。きっかけをつかむのが難しい
- ・選挙が近づいてからではダメ。日常的なところから延長して選挙につなげられるか
- ・議員のネット活用のスキル・アップが必要である

まとめ

- ・地方選だからこそ活かしていける。SNS は顔が見える。しかし、「いいね!」、「RT」は量よりも質が大切である
- ・選挙直前でのネット活用では見透かされる。急ごしらえはわかる。日頃の積み重ねが大切なのではないか?

以上